

第三者評価結果の公表事項(児童養護施設)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②評価調査者研修修了番号

SK15163 第2006-03号 第2006-05号 第2016-03号

③施設の情報

名称：児童養護施設 美谷学園		種別：児童養護施設	
代表者氏名：井上 直寛		定員(利用人数)：86名 (地域小規模児童養護施設6名を含む)	
所在地：岐阜県関市武芸川町谷口2221番地の1			
TEL：0575-37-2131		ホームページ：http://www.mitanikai.com/	
【施設の概要】			
開設年月日 昭和29年9月1日			
経営法人・設置主体(法人名等)：社会福祉法人 美谷会			
職員数	常勤職員： 35名	非常勤職員	6名
専門職員	(専門職の名称) 名		
	施設長・事務職員 4名	個別対応担当員	1名
	指導員・保育士 24名	里親支援専門相談員	1名
	栄養士 1名	家事援助専門員	1名
	家庭支援専門相談員 1名	嘱託医	1名
	心理療法担当職員 3名	調理員	4名
施設・設備の概要	(居室数)	(設備等)	
	居室 13室 幼児室 1室	学習室 1室 図書室 2室	保育室 1室 医務室 1室
		静養室 1室 食堂 1室	
		厨房 1室	
		浴場 2室	トイレ 6

④理念・基本方針

<p>「施設」の理念(園是)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直、素直な明るい子ども、みんな仲良く助け合い強く元気に生きましよう。 ・朝起き、正直、働き。 <p>基本方針</p>
--

- ・児童養護計画に基づき、可能な限り家庭復帰を念頭において入所児童に対して日常生活の世話、健康管理等を行うことにより、入所児童が将来独立自活の生活が営むことができるよう適切な施設サービスの提供に努める。
- ・明るく家庭的な雰囲気有し、学校や地域、家族との結びつきを重視し、朝起き・正直・働きをモットーとして健全な環境のもとに入所児童との密接な関係性を高めるように努める。

⑤施設の特徴的な取組

- ・終戦後、天理教の宗教精神から、戦災孤児その他生活困窮者を預かり保護する社会事業を始め、昭和29年に宗教理念を基に宗教法人立として定員30名にて開園して以来、時代の要請により、定員を増やし、昭和56年、施設老朽化に伴う全面改築を行った。開設当時の崇高な精神を引き継ぎながら現在に至っている。
- ・施設は大舎制であるが、並行して小規模施設展開に取り組む等、地域に開かれた施設を目指している。山間部の恵まれた自然の中で、社会的自立に向けた養育・支援に心がけている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成28年10月11日（契約日） ～ 平成29年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成25年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

<子ども本位の養育・支援に努めている>

児童憲章をパンフレットやホームページに明記し、子どもを尊重するという基本姿勢を示している。また、職員必携を全職員に配布し、職員間で読み合わせをして共通理解をしながら、子どもの最善の利益を目指して子ども本位の養育・支援に努めている。職員が子どもたちと一生懸命に向き合う姿勢が感じ取れた。

<地域との交流が活発であり、関係機関との連携が密接である。>

運営方針に地域との連携強化を明記し、地域に向けて積極的な働きかけを行っている。地域の子どもたちとは、日常的に交流があり、地域の高齢者団体との交流を行ったり、学園行事や地域行事に相互参加する等、地域交流に取り組んでいる。

<子どもへの専門的な心理的支援にあたっている。>

心理療法担当職員体制を強化し、心理職の常勤化と複数配置を行い、子どもの心理的ケア

の充実に努めている。

◇改善を求められる点

<プライバシー確保と環境設備の充実に期待する>

前回の評価に比べて、居室にカーテン等を使用する等、当面のプライバシー確保についての方策が実施されていることを評価したい。今後は、施設改築の際に、個室化と環境整備の充実に向けた取り組みに期待したい。

<マニュアルや規程について整備の充実を>

各種マニュアルや規程について概ね文書化されているが、一部について未整備である。今後の整備に向けた取り組みに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の福祉サービス第三者評価の受審を通して、支援や今後の方針について見直す良い機会となりました。評価では、良い点や改善すべき点などにつきましてご指摘をいただきました。今後、改善すべきと指摘された点については、継続的に改善に向けた取り組みを行うとともに、評価の良かった点についても更なる改善に努めることで、多様化する子どものニーズに対応した養育・支援に努めていきたいと考えています。また、今後、施設の改築に合わせて、生活環境の整備を図る等、プライバシー確保と環境整備の充実に向けて取り組んでまいります。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果（児童養護施設）

※すべての評価細目（共通評価基準 45 項目・内容評価基準 41 項目）について、判断基準（a・b・c の 3 段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

共通評価基準（45 項目）

評価対象 I 養育・支援の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・ ① ・c
<コメント> 学園の理念「正直、素直な明るい子ども、みんな仲良く助け合い強く元気に生きましょう。」「朝起き、正直、働き。」が明文化されている。また、それを踏まえて、2つの学園の基本方針「児童養護計画に基づき、可能な限り家庭復帰を念頭において入所児童に対して日常生活の世話、健康管理等を行うことにより、入所児童が将来独立自活の生活が営むことができるよう適切な施設サービスの提供に努める。」「明るく家庭的な雰囲気を有し、学校や地域、家族との結びつきを重視し、朝起き・正直・働きをモットーとして健全な環境のもとに入所児童との密接な関係性を高めるように努める。」が明文化され、具体的な指標として、3つの基本目標が明文化されている。 子どもや保護者への周知はまだ十分ではない。今後、パンフレットやホームページに基本方針を記載する等して法人・施設の使命や役割を周知する機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		

2	I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・ 分 析されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>福祉動向については行政情報やインターネットから収集したり、全国児童養護施設協議会、県児童福祉協議会を通じて、また各種研修に参加する等して情報収集に努めている。また業界団体や地域団体会議に参加し、地域のニーズ把握に努めている。今後、地域の潜在的ニーズについてさらなる収集に向けた取り組みに期待したい。</p>		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めてい る。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>現在、社会福祉法人改革の流れの中で、社会的養護関係施設をめぐる環境変化に対応すべき現状分析が行われている。今後、さらに利用者満足を高めつつ、効率化や透明化を推し進め、福祉の向上と経営体質の強化を図っていく取り組みに期待したい。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定され て いる。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>社会的養護関係施設をめぐる制度変動や経営課題を踏まえた中・長期的ビジョンを策定している。中・長期を睨んだ大枠でのビジョンはできているが、経営全般に渡る具体的な計画として明確化されていない。今後、予算に裏付けされた経営全般に渡る具体的な計画の策定に向けた取り組みに期待したい。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されて い る。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>各年度単位で予算を伴った経営全般に渡る法人全体の事業計画を、前年度の事業報告を踏まえて策定している。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直し が 組	a・ b ・c

	織的に行われ、職員が理解している。	
<p><コメント></p> <p>事業計画は、管理層が中心となって策定し、評価、見直しをしているが、計画策定にあたり、職員の参画や周知に向けた取り組みの不十分さを認識している。今後、事業計画の作成について職員の参画や周知の機会拡充に向けた取り組みに期待したい。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームページで決算書類、事業報告、事業計画、現況報告、事業内容について公開しているが、保護者に周知する取り組みは行っていない。今後、保護者にも事業計画全体の要旨についてわかりやすい資料を作成する等、理解を促す工夫に向けた取り組みに期待したい。</p>		

I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設全体で自己評価を実施しており、今年度は第三者評価を職員全員で実施し、共有化をしている。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>自己評価・第三者評価は職員参画のもとで実施し、現状を共有化しているが、その分析や課題の明確化についての組織としての取り組みは不十分である。今後、職員参画のもと、PDCAのプロセスを通して組織的・計画的に評価結果の分析等を実施する等、改善に向けた取り組みに期待したい。</p>		

評価対象Ⅱ 施設の運営管理

Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

	第三者評価結
--	--------

		果
II-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。		
10	II-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し 理 解を図っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長は長年の児童養護施設運営の経験があり、その経験の蓄積からの知見や信念を有しており、自らの役割と責任を、職務分掌等で明示するとともに、職員会議等で自らの運営方針や役割と責任を職員に表明している。</p>		
11	II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を 行 っている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>法令遵守に努め、研修会にも積極的に参加し、職員会議や研修を通して職員への周知を図る等、職員のコンプライアンス意識を高める取り組みを行っている。今後、組織ガバナンスの観点から、職員全体にさらなる理解の浸透に向けた取り組みを期待したい。</p>		
II-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
12	II-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指 導 力を発揮している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長は長年の児童養護施設運営の経験があり、その経験の蓄積からの知見や信念を有しており、情熱をもって職員に助言指導を行う等、支援に対するリーダーシップを発揮している。</p>		
13	II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力 を 発揮している。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>施設長は、運営上の課題を明確化し、職員会議等を通して改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。しかしながら、業務の標準化や業務実効性を高めるための体制づくりを推進していくことは今後の課題と考える。制度変動期にあつて、施設経営を取り巻く環境変化を読みにくい状況ではあるが、業務の標準化・効率化に努めるとともに今後、さらなる体制整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		

II-2 福祉人材の確保・育成

	第三者評価結果
--	---------

Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>この業界においては、人材確保が困難な状況が続いている昨今であるが、あらゆるチャネルを通じて計画的に採用活動を行っており、計画的な外部研修への参加や園内研修の実施等職員の教育研修に力を入れているとともに、日常的な業務の中での指導等を通じた定着支援に努めている。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・b・㉡
<p><コメント></p> <p>就業規則や給与規定等は整備されているが、人事考課の客観的な基準の整備が十分ではない。職員が将来のキャリアモデルを描けるよう、法人の人事管理システムの整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・㉢・c
<p><コメント></p> <p>職員の有給休暇の取得状況を定期的にチェックし、積極的に取得できるよう配慮している。また就業状況をチェックし、日々の業務の中で意向を把握し、分析・検討している。また職員が相談しやすい職場環境の整備に心がけ、園長、副園長が相談に応じている。施設の課題として、人材確保が困難さが増している時代状況の中での運営にあたる必要があり、希望に応じた有給休暇の完全取得の実現について困難な状況がある。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・b・㉣
<p><コメント></p> <p>職員個々の目標設定、業務実践のアセスメント、能力開発に資する目標管理制度に向けた取り組みに期待したい。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>運営方針の中で、研修会への積極的な参加やケース検討会等の充実が明示されている。研修の年間計画が策定され、その中で、職位別・職種別の研修や様々な外部研修が実施されている。</p>		

19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>職位別・職種別の研修計画を策定し、実施している。外部研修参加に加え、事業所内での研修会を開催している。研修受講後、研修内容の伝達講習を行う等職員への周知を図り、今後の研修計画の見直しに反映させている。今後、職員個々に着目した個別研修計画の策定に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>実習生の受け入れマニュアルを整備し、その意義や基本方針について職員会議で周知している。当園の使命として積極的な受け入れを行っており、毎年、多くの実習生を受け入れている。受け入れにあたっては、窓口を設置し、養成校と連携しながら、事前のオリエンテーション、実習後のカンファレンスを通して振り返りを行い、次年度の受け入れに反映させている。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>施設のパンフレット等で施設の理念、治療・支援内容等を公開している。また、ホームページで、理念、事業内容、事業状況や決算書類等を公開している。今後、施設の基本方針についてパンフレットやホームページ等での明示に向けた取り組みに期待したい。</p>		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>会計事務所による定期巡回指導を受け、事務、経理、取引等についてルール化している。</p>		

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果
--	---------

		果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	㉠・b・c
<p><コメント></p> <p>運営方針に地域との連携強化を明記し、地域に向けて積極的な働きかけを行っている。地域の子どもたちとは、日常的に交流があり、地域の高齢者団体との交流を行ったり、学園行事や地域行事に相互参加する等、地域交流に取り組んでいる。</p>		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・㉡・c
<p><コメント></p> <p>積極的にボランティア受け入れを行っている。今後、ボランティアマニュアルの整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・㉢・c
<p><コメント></p> <p>小・中学校との定期的な連絡会を開催したり、要保護児童対策地域協議会に委員として参加する等、関係機関との連携が密に行われている。今後、施設に関わる地域の社会資源（関係機関・団体等）のリスト化や職員への周知徹底に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 施設が有する機能を地域に還元している。	a・㉣・c
<p><コメント></p> <p>地域ニーズに応じて、ショートを受け入れ、一時預かり、講師の派遣等により、地域に機能を還元しているが、さらにホール貸出等の実施について、地域に広報することにより、施設機能の還元がより進むと思われる。</p>		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・㉤・c
<p><コメント></p> <p>社会福祉法人改革の流れの中で、今後、社会福祉法人の使命として、公益的な事業活動がますます重要になってくる。現在、法人全体で要綱を整備し、法定後見支援委員会を設置して、後見制度</p>		

利用支援に取り組んでおり、当園においても未成年後見制度の利用支援に向けた取り組みを行っている。公益活動はこれからの分野であるので、今後とも子どもの拠点施設として地域のニーズを捉え、この分野での活動の拡充に向け、継続した取り組みに期待したい。

評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施

Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>児童憲章をパンフレットやホームページに明記し、子どもを尊重するという基本姿勢を示している。また、職員必携を全職員に配布し、職員間で読み合わせをして共通理解をしながら、子どもの最善の利益を目指して子ども本位の養育・支援に努めている。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援提供が行われている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>職員必携を行動の指針として子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援を行っている。また、居室にカーテン等を用いて子どものプライバシーが守られるよう配慮する等、ハード面でのプライバシー確保に向けた取り組みを行っている。さらに権利ノートの子どもの配布やプライバシー保護マニュアルの整備に向けた取り組みに期待する。</p>		
Ⅲ-1-(2) 養育・支援の提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 子どもや保護者等に対して養育・支援選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>養育・支援内容・設備等が記載されたパンフレットを作成し、またホームページに掲載している。今後、子どもにわかりやすい施設案内の作成に向けた取り組みに期待したい。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等に	a・Ⓑ・c

	わかりやすく説明している。	
<p><コメント></p> <p>入所時には安心感を持てるよう丁寧に説明を実施している。今後、子どもに渡せるわかりやすい説明資料の作成に向けた取り組みに期待したい。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>治療・支援について、措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。退所後子どもが困った時に、子ども自身が相談できるよう伝えている。今後、養育・支援の継続性に配慮した引継ぎ文書の作成に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの最善の利益を目指して子どもの満足の向上に努めているが、利用者満足度調査や検討会は行っていない。今後、利用者満足という観点からの調査実施に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅲ-1-(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>意見箱を設置し、苦情解決の仕組みが整備され、サービス点検委員会を設置している。今後、子どもへの周知に向けた取り組みに期待したい。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>意見を述べやすいスペースがあり、苦情担当者が設置され、誰でも気軽に相談できる体制ができている。子ども向けにわかりやすい説明文を作成する等の周知に向けた取り組みに期待したい。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に	a・b・c

	対応している。	
<p><コメント></p> <p>子どもからの送電や意見に対して、ケース検討会やグループ会の開催等を通じて全職員が共通認識を持ち、迅速に対応している。今後、対応マニュアルの整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な養育・支援の提供のための組織的な取組が行われている。</p>		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の提供を目的とするリスクマ ネジメント体制が構築されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>リスクマネジメントに関する研修は受けているが、対策委員会の設置やヒヤリハットの取り組みが不十分であると思われる。今後、委員会設置やヒヤリハットの実施・集計・分析等を通して、再発防止に向けた取り組みに期待したい。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保 の ための体制を整備し、取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>感染症対策マニュアルを整備し、感染予防に関する研修を受けている。また法人内の近隣施設の看護師を講師として、感染予防の勉強会を行っている。今後とも、定期的で継続的な勉強会等の取り組みについて期待する。また、マニュアルの定期的な見直しの仕組みの構築に向けた取り組みに期待する。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を 組 織的に行っている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>施設の立地条件等から土砂災害の影響等を把握している。防災対策マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施し、職員や子どもの防災意識を高めている。</p>		

Ⅲ-2 養育・支援の質の確保

		第三者評価結果
<p>Ⅲ-2-(1) 提供する養育・支援の標準的な実施方法が確立している。</p>		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する養育・支援について標準的な実施方法が文 書 化され養育・支援が提供されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>個々のサービスの標準的な実施方法については、個々のサービスに応じた各種マニュアルを作成</p>		

し、職員周知に努めているが、いくつかのマニュアルについては整備されていない。		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>職員会議等で話し合い、マニュアル類の定期的な見直しを図る仕組みの構築に向けた取り組みに期待したい。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより養育・支援実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な養育・支援実施計画を適切に策定している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>課題のある子どもについてニーズを明らかにするため、施設で統一された様式を用いてアセスメントを行い、検討会議を開いて自立支援計画を作成している。今後、子どもたち全員に計画を作成するべく検討に向けた取り組みに期待したい。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に養育・支援実施計画の評価・見直しを行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>定期的な自立支援計画の評価・見直しの過程に検討を要する。また自立支援計画の活用に向けた取り組みが望まれる。</p>		
Ⅲ-2-(3) 養育・支援実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>養育・支援実施状況の記録は標準化されている。記録内容に差異が生じないよう記録方法についても指導を行っている。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>子ども一人ひとりの記録は、鍵のかかるロッカーに適切に保管されている。職員は個人情報保護規程を理解し、遵守している。</p>		

内容評価基準（41 項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われ ることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a・ ① ・c
<p><コメント></p> <p>子どもの最善の利益について職員必携を基に話し合い、その考え方について共通理解している。また日頃から職員一人ひとりの価値観や考え方について差が生じないように、支援について確認し合っている。若い職員が相談しやすいように日常的な業務の中で声をかけたり、施設長、副施設長、心理士等が相談に応じたりしている。現在、キャリアの豊富な管理層が有する援助技術の中堅層への継承や育成が急務であるとする。今後、スーパービジョン体制を充実させ、「子どもの最善の利益」を目指した支援の実践に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A②	A-1-(1)-② 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や 生い 立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a・ ② ・c
<コメント>		

<p>子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況については、子ども一人ひとりの状況を考慮し、子ども相談センターと連携し、慎重な対応に努めている。子どもの発達の状況や社会的な必要性を踏まえてどこまでどのように伝えるかについて慎重に検討しながら個別に取り組んでいる。</p>		
<p>A-1-(2) 権利についての説明</p>		
<p>A③</p>	<p>A-1-(2)-① 子どもに対し、権利について正しく理解できるように、 わかりやすく説明している。</p>	<p>a・③・c</p>
<p><コメント></p> <p>子どもの権利ノートを使い、1項目ずつ学園内での権利や約束等について年齢に応じてわかりやすく説明している。また職員会の中で事例に基づいて話し合っている。さらに定期的に子どもの全体会議を開く等してわかりやすく説明する機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-1-(3) 他者の尊重</p>		
<p>A④</p>	<p>A-1-(3)-① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、 他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。</p>	<p>④・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>地域の人との3世代ふれあい交流グランドゴルフや高齢者を招いたり、「なかよしまつり」の行事等を通じて、地域の人々とふれあう機会を設け、他者への心づかいや思いやる気持ちを育てている。これら園の行事の時には、子どもたちが招待状を持って家庭を回るようにしている。またインターネット等でボランティアを募り、積極的に受け入れている。</p>		
<p>A-1-(4) 被措置児童等虐待対応</p>		
<p>A⑤</p>	<p>A-1-(4)-① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱め るような行為を行わないよう徹底している。</p>	<p>⑤・c</p>
<p><コメント></p> <p>園長と副園長のリーダーシップの下、体罰禁止に関して徹底した職員指導が行われている。職員研修を通して職員の人権意識を高め、また体罰を必要としない援助技術の習得に努めている。</p>		
<p>A⑥</p>	<p>A-1-(4)-② 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p>	<p>a・⑥・c</p>
<p><コメント></p> <p>起きた事項については、個人のファイルに文章化し、記録している。事故報告書は子ども家庭課、子ども相談センター、中濃振興局に提出する事になっている。いろいろな事項に関してはすべて朝礼会で職員に周知している。不適切なかかわりについて、子どもに学習会を開く等、知識や自分の身を守るための方法について周知に向けた取り組みに期待したい。</p>		

A⑦	A-1-(4)-③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a・ ⑥ ・c
<p><コメント></p> <p>被措置児童等虐待の届出・通告制度について研修を通じて職員周知を徹底している。また職員必携等を用いて職員間で話し合い、子どもの権利擁護について学びを深めている。虐待の事実が明らかになった場合には、施設運営の改善を行い、再発防止を行う仕組みがある。虐待についてわかりやすい資料を用いて、機会を作って子どもに説明し、子どもがいつでも意見が言えるような仕組みの充実に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A-1-(5) 思想や信教の自由の保障		
A⑧	A-1-(5)-① 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	⑦ ・b・c
<p><コメント></p> <p>天理市で開催されたバトントワリング、鼓笛隊として希望者 20 名で隊を組んで出場する等の活動を行っているが、学園内に宗教的な展示物や掲載は見られず、子どもたちが自由な思想・信教を持ち、生活ができています。</p>		
A-1-(6) 子どもの意向や主体性への配慮		
A⑨	A-1-(6)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a・ ⑧ ・c
<p><コメント></p> <p>入所時には特に子どものそれまでの生活歴等を確認し、職員間で共有するよう努めている。受け入れ体制や環境設定に配慮し、園全体で子どもの支援に取り組んでいる。園としての子どもを温かく受け入れる準備等、安定した生活が定着するまでの園としての充実化と見直しの仕組みの整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A⑩	A-1-(6)-② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a・ ⑨ ・c
<p><コメント></p> <p>日々起きている問題についてグループワークを行い子どもたちで話し合い、子ども同士で解決に向けて取り組むよう働きかけている。内容については園務日誌やグループ日誌に記入し、職員に周知している。今後、子どもたちが主体性を持って話し合えるよう、更なる働きかけに向けた取り組みに期待したい。</p>		

A-1-(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活		
A⑪	A-1-(7)-① 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>生活全般については園の方針や規則に従っているが、遊ぶ時間や外出先、行楽地の選定等は子どもたちの意見を尊重している。ゲーム依存にならないように、規制が必要だとのことで時間を決めている。さらに子どもたちの意見や自主的活動を尊重し、支援に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A⑫	A-1-(7)-② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>年齢や発達段階に配慮した金銭管理の支援により、お小遣い帳を作成したり、将来に備えた貯金もする等、経済観念を養う取り組みを行っている。</p>		
A-1-(8) 継続性とアフターケア		
A⑬	A-1-(8)-① 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>家庭復帰については、子ども相談センター等関係機関と連携しつつ、家庭支援委員会でカンファレンスを行って、協議したり、一時帰宅を行ったりする等、子どもと保護者が安心して生活できるよう支援を行っている。また復帰後も本人や保護者と連絡を取ったり、家庭訪問をする等、継続した支援を行っている。</p>		
A⑭	A-1-(8)-② できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>措置継続や措置延長については、年1回は子どものケース検討会を行っている。進学については、日常的に中学や高校と連携を取ったり、就職については、寮生活ができる企業を選ぶ等、子どもの思いを大切にしながら、その子に合った支援ができるように配慮している。</p>		
A⑮	A-1-(8)-③ 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>子どもに退所後の相談窓口を知らせ、いつでも相談できる旨知らせている。子ども相談センター</p>		

から連絡をもらい、対応しているが、積極的なリービングケアは行っていない現状がある。園の行事に参加を促すたよりを送り、退所後も交流できるきっかけを作り、支援できる機会を多くしたり、家庭訪問の回数を多くしたり、電話をかける等、退所後の支援に向けた取り組みに期待する。

A-2 養育・支援の質の確保

A-2-(1) 養育・支援の基本		
A⑯	A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	a・ ⑯ ・c
<p><コメント></p> <p>職員は担当している子どもが表出する感情や言動を受けとめ、受容的な態度で向き合い、信頼関係を築こうと努力している。しかし、施設を巡る昨今の人材確保の困難さや現状の勤務の体制から、なかなか一人ひとりの子どもとじっくりと向き合うことができない現状がある。その中において関係を築ける努力をしているとのことであるので今後の取り組みに期待したい。</p>		
A⑰	A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a・ ⑰ ・c
<p><コメント></p> <p>基本的要求に対して、日々の生活の中で衣食住を共にしたり、じっくり関われる時間を作るよう努め、乳児には添い寝をしたり、幼児や低学年の子どもとは一緒に入浴したりして、寄り添いながら、スキンシップに心がけ、子どもが安心感を得られるよう支援している。今以上に職員とふれあう時間を作り、何でも相談したり、聞いてもらえるような信頼関係の構築に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A⑱	A-2-(1)-③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	⑱ ・b・c
<p><コメント></p> <p>職員の決めつけが子どものやる気をそがない様、見守るという姿勢で養育している。特に小学校1～2年生までは、スキンシップを大切にし、その後は年齢に応じ見守り姿勢を変えながら支援している。</p>		
A⑲	A-2-(1)-④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a・ ⑲ ・c
<p><コメント></p> <p>幼児から高校生の子どもたちそれぞれに、玩具やスポーツ道具、絵本、図書、テレビ等が用意され、園庭にも専用の遊具があり、外でも思いっきり遊んだり、楽しむことができる。しかし、学習</p>		

<p>室のスペースが子どもに対して十分な広さではないので、活用方法について皆で検討していく必要があると考える。</p>		
A⑳	<p>A-2-(1)-⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。</p>	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>園では安全を重視した養育の実践に取り組んでおり、卒園後、社会で生活できるよう社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう支援に努めている。地域の行事への参加や買い物外出は社会生活のルールを習得する良い機会になっている。今後とも具体的な事例を踏まえつつ、守るべき規範や生活技術について伝えていく工夫に向けた更なる取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-2-(2) 食生活</p>		
A㉑	<p>A-2-(2)-① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。</p>	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>食事の時間は年齢に応じて時間差を設けている。食事の席は、職員が人間関係を配慮してあらかじめ決めており、訪問時は、職員が子どもたちの中に入り、賑やかに会話しながら食事をしている様子が見られた。食事については適時適温により配慮した提供に努められたい。また食器、盛り付けやテーブルの飾り付け等、食事が楽しみなものになるような工夫に向けた取り組みに期待する。</p>		
A㉒	<p>A-2-(2)-② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。</p>	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>毎年、嗜好調査を実施し、子どもの意向をメニューに取り入れている。食物アレルギーについては入所の際に保護者に聞き取りをしているので、別メニューを提供している。また病気に配慮した食事の提供も行っている。ご飯はおかわりができるが、副食の品数が少なめであった。育ち盛りの中高生には物足りなさを感じるのではないかとと思われる。メニューの品数について検討に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A㉓	<p>A-2-(2)-③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。</p>	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>中学3年生はホテルでのテーブルマナーを覚える機会を毎年、支援者から提供されている。高校生になると、昼食用のお弁当づくりのため、でき上がったおかず等を弁当に詰める作業を当番制で行</p>		

<p>っている。偏食の子についてはひと口、ふた口と少しずつ食べられるよう柔軟に指導している。原則、食材を買いに行ったり、厨房に入る事はできないので、調理を手伝ったり、食事を準備をする機会が少ないため、少人数で簡単に作れるおやつ作り等、クッキングが楽しめるような機会づくりに向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-2-(3) 衣生活</p>		
A⑳	<p>A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。</p>	<p>㉑・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>服装については、子どもの好みを尊重している。しかし、季節感を考えず、いつまでも同じ衣類を着ている子どもには適切な指導をしている。また中高生は年2～3回ほどグループで職員と共に買い物に行く機会がある。洗濯機は共同で使用し、中学生から下着等は自分で洗濯をしている。</p>		

<p>A-2-(4) 住生活</p>		
A㉒	<p>A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整美されている。</p>	<p>a・㉓・c</p>
<p><コメント></p> <p>共用部分は職員が掃除をし、各居室の整理整頓や掃除は掃除の時間を設け、子どもたちに指導の一環としてさせている。施設内は清潔に保たれている。建物前の花壇には季節の花が植えられ、目を楽しませている。今後、さらに、廊下等の共有スペースについても花や絵画が飾られる等、温かみのある環境作りに向けた取り組みに期待したい。</p>		
A㉔	<p>A-2-(4)-② 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。</p>	<p>a・㉓・c</p>
<p><コメント></p> <p>居室は相部屋になっているが、ベッド回りにはカーテンが施され、プライバシーに配慮している。しかしながら、個室ではないので完全にプライバシーが確保できる状況ではない。</p>		
<p>A-2-(5) 健康と安全</p>		
A㉖	<p>A-2-(5)-① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。</p>	<p>㉑・b・c</p>
<p><コメント></p> <p>身体の健康面や安全面においては、年齢に応じて支援や声かけを行い、子どもたちが自分で行えるようにしている。一人ひとりの生活リズムや生活習慣を把握するようにして心身状況の変化に気がつくように心がけている。また高学年になるにつれ、行動範囲も広がるため、交通安全を含めた社会的ルールを伝えるようにしている。</p>		

A ㉔	A-2-(5)-㉔ 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	㉔・b・c
<p><コメント></p> <p>定期検診を実施している。精神状態の不安定さが健康状態に影響することが多いため、日頃の様子や子どもの状況に応じて健康管理を行っている。</p>		
A-2-(6) 性に関する教育		
A ㉕	A-2-(6)-㉕ 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a・㉕・c
<p><コメント></p> <p>職員が外部研修を実施し、性教育に関する知識を職員会で報告しているが、子どもの発達に応じた性教育のカリキュラムについて未整備なので、整備に向けた取り組みに期待したい。</p>		
A-2-(7) 自己領域の確保		
A ㉖	A-2-(7)-㉖ でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	㉖・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの名前をタグに書いたり、ジャージなどは、見えない所に名前を書き、個人がわかるようにしている。貯金通帳は一人ひとりの所有となっている。</p>		
A ㉗	A-2-(7)-㉗ 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a・b・㉗
<p><コメント></p> <p>各行事ごとの写真を撮っているが、子どもの成長過程を辿った写真は撮れていない。成長の記録もまだ現状ではやれていない。自分を受け入れられない子どももいるので、担当職員が記録している日誌の中からその時々のエピソードを抜粋し、アルバムとして作成したり、写真についても成長記録として残して置くことが必要であると思われる。</p>		
A-2-(8) 行動上の問題及び問題状況への対応		
A ㉘	A-2-(8)-㉘ 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対し、適切に対応している。	㉘・b・c
<p><コメント></p>		

<p>子ども間の問題行動に関しては心理職も含めた職員全体のチームで対応している。毎月のケース検討会において園全体でどう関わったら良いのかを話し合うと共に個別検討会も随時実施している。施設内研修に外部講師を招く等して定期的の実施し、職員の援助技術の向上に努めている。子ども相談センターや警察等と密に連携している。</p>		
A ㉓	A-2-(8)-② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a・㉔・c
<p><コメント></p> <p>マニュアルは作成していないが、職員必携に基づき、日頃から子どもとの関わりの中で、問題発生の予防に努めている。問題発生時には朝礼や職員会議等で対応について話し合い、適切に話し合っている。</p>		
A ㉔	A-2-(8)-③ 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引き取りの可能性のある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a・㉔・c
<p><コメント></p> <p>子どもの様子を観察し、虐待の可能性があるかどうか注意して子どもの様子を観察している。引き取りについて強引な保護者については、子ども相談センターと相談しながら対応している。職員が統一的な対応ができるよう、対応マニュアルの作成に向けた取り組みに期待したい。</p>		
<p>A-2-(9) 心理的ケア</p>		
A ㉕	A-2-(9)-① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	㉔・b・c
<p><コメント></p> <p>心理職員と現場の職員から見て、必要と思われる子どもについて、日程を定め、心理が面談心理療法を行っている。心理的ケアについては秘密が守られている。</p>		
<p>A-2-(10) 学習・進学支援、進路支援等</p>		
A ㉖	A-2-(10)-① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a・㉔・c
<p><コメント></p> <p>学習室はあるが、子どもの人数に対して広くはなく、落ち着いて学習できる環境は十分ではないので、自分の部屋で勉強する場合もある。学習室は午後 11 時まで使用できる。職員が居室又は学習室で学習支援を行っている。</p>		
A ㉗	A-2-(10)-② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができる	a・㉔・c

	よう支援している。	
<p><コメント></p> <p>進路の選択にあたっては、多くの情報を提供し、将来の事を考えることができるよう支援している。進学の道を選ぶ子には、奨学金の情報も伝えている。卒業後もハローワークと連携し、寮やアパートが整備された勤め先を探す等、支援している。今後、就労しながら施設入所を継続できるような取り組みに期待したい。</p>		

A③⑧	A-2-(10)-③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a・b・c
-----	---	-------

<p><コメント></p> <p>卒業後の自立に向けて高校生にはアルバイトや資格取得を奨励している。職場実習や体験は主に学校が対応して行っているが、施設としても実習先や体験先の開拓に積極的に取り組まれたい。</p>		
---	--	--

A-2-(11) 施設と家族との信頼関係づくり

A③⑨	A-2-(11)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a・b・c
-----	--	-------

<p><コメント></p> <p>家族からの要望や相談は、家庭支援専門員が中心となり、子ども相談センターと連携を取りながら対応している。施設行事や授業参観の案内について電話や文書等で連絡をし、極力来園していただくようにしている。</p>		
--	--	--

A-2-(12) 親子関係の再構築支援

A④⑩	A-2-(12)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a・b・c
-----	---	-------

<p><コメント></p> <p>家庭復帰に向けて、親子で過ごせる宿泊施設があり、親子関係の再構築のための支援を行っている。また一時帰宅をしてもらい、家庭訪問により家庭での様子を見ながら家庭復帰に向けて取り組んでいる。家庭支援相談専門員が窓口となり、子ども相談センター等、関係機関と連携を取っている。</p>		
--	--	--

A-2-(13) スーパービジョン体制

A④⑪	A-2-(13)-① スーパービジョンの体制を確立し、施設の組織力の向上に取り組んでいる。	a・b・c
-----	---	-------

<p><コメント></p> <p>副園長がスーパーバイズを行い、職員の疑問や相談に応じている。今後、スーパーバイズができる職員の育成が急務である。職員の支援技術の向上に向けた取り組みに期待したい。</p>		
--	--	--

